

鈴木財務大臣・金融担当大臣

“Transition to Net Zero” 開会挨拶

2022 年 5 月 26 日【ビデオ出演】

- 金融担当大臣の鈴木俊一です。
- 本日は、金融庁主催の国際カンファレンス「Transition to Net Zero」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。
- 本カンファレンスは、気候変動の進行を防ぐため、脱炭素社会への着実な移行、いわゆるトランジションに関する産業部門別の有用な道筋や、トランジションを支える民間金融の役割に焦点を当てております。
- 気候変動は、私にとって思い出深いテーマです。と申しますのも、ちょうど 20 年前の 2002 年、私は環境大臣の職にありました。その際、京都議定書の発効に向けた議論を行っていたのを鮮明に覚えております。あれから 20 年が経ちましたが、2016 年にはパリ協定が発効し、国際協調が急速に進むなど、気候変動への対策はいまや全世界で喫緊の課題となっております。

- 日本政府も、一昨年、「カーボンニュートラル 2050」を掲げ、精力的に取り組を進めています。パリ協定の目標達成に向けては「トランジション」の努力が重要であり、その中でも近年特に注目されておりますのが、トランジションを支援する金融の役割です。この、いわゆる「トランジションファイナンス」の重要性が、G20 を始めとする国際社会でも足許では共通認識となっております。
- 我が国は早くからトランジションの重要性を主張しており、2021 年 5 月には、経済産業省、環境省と金融庁が「クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針」を公表しました。その後も経済産業省や国土交通省を中心に、多排出産業のトランジションを促すための「分野別ロードマップ」を作成するなどの取り組みを進めてまいりました。
- 金融庁としても、関係省庁とともに、こうしたトランジションファイナンスの市場づくりに貢献するとともに、持続可能な社会の実現に向け、3つの観点から、すなわち、
 - ①企業の気候変動対応に関する情報開示の充実、
 - ②金融資本市場の機能発揮にむけた環境整備、

③金融機関による投融資先支援と気候変動リスク管理、の観点から、サステナブルファイナンスに関する施策を進めております。

本年4月には、トランジションを含む顧客企業の気候変動対応を積極的に支援することを、金融機関自身による気候変動への対応の中心と位置付けた「気候変動に関するガイダンス案」を公表しており、6月に最終化する予定です。

- トランジションファイナンスに関しては、こうした政府の取組みに留まらず、民間の皆様が主導する動きも活発です。パリ協定を達成するため、移行計画の信頼性をどのように評価するか、トランジションに必要な技術革新をどのように促すか、といった議論が進んでいます。
- そこで、本日のイベントのために、そうした民間団体の1つ、Glasgow Financial Alliance for Net Zeroの議長でもある、マーク・カーニー 気候変動対策・ファイナンス担当国連特使と、水野弘道 革新的ファイナンス及び持続可能な投資に関する国連特使から、昨今のエネルギー事情も踏まえたトランジションファイナンスについて、対談を行っていただいております。

- その後、シンガポール金融監督局 ダリアン・マクベイン
チーフ・サステナビリティ・オフィサーから、アジアにお
けるトランジションの取組みや当局の役割について講演
いただきます。
- 続いて、カーボンニュートラルに向けた国内外の取組み
や、鉄鋼・航空・電力・金融セクターのトランジションに
ついて、それぞれパネル討論を行っていただく予定です。
- このような幅広い議論をしていただくため、内外の金融
界や産業界、政府の関係者に一堂に会していただきました。
- 気候変動というグローバルな課題を解決するには、こう
した様々な関係者が国境を越えて協力することが肝要で
す。今回のカンファレンスが、サステナブルな未来の実現
にむけた国際協力の一助となることを願っております。